

空間へのアクセシビリティを制御し、空間の価値を創造する『Sharingkeyプロジェクト』
第一弾となる『TiNK Desk』のサービス実証実験開始を発表
～福岡市主催の「福岡市実証実験フルサポート事業」採択プロジェクトとして実証実験を実施～

コネクティッド・ロックの開発および、関連サービスを手掛ける株式会社tsumugは、ビジョンに掲げる『それぞれの心地よい居場所で世界を埋めつくす』の実現を目指し、空間へのアクセシビリティを制御することにより、空間の価値を創造する『Sharingkeyプロジェクト』第一弾となる『TiNK Desk』のサービス実証実験開始を発表しました。



TiNK Desk サービスロゴ

TiNK Deskはマンションの空室に展開するサービスで、誰でも短時間から利用できるワークスペースを提供します。玄関には自社製品『TiNK』をはじめ他社製品を含むロックデバイスを設置し、サービス利用者の入室管理・制御を行います。サービス利用に際して特別なアプリのインストールは不要で、トークアプリのLINEを使って利用開始の手続きや鍵の施錠を行います。フリーランサーや複業を持つ人・テレワーカーなど、オフィスや自宅以外にワークスペースを必要とする方向けに、より身近でより集中できる場を提供します。

tsumugは、2017年11月に賃貸住宅向けコネクティッド・ロック『TiNK』シリーズを発表。以降ハードウェアと鍵管理に関するソフトウェアを開発してきました。『TiNK』シリーズは外部サービスとの連携しやすさを優先して設計しており、『TiNK』シリーズの魅力をもより一層拡大すべく、ハードウェアの販売だけでなく自社サービスの提供を開始するにいたりました。空間のアクセシビリティをロックデバイスと鍵管理のシステムで制御し、空間の価値を創造するサービスの総称を『Sharingkeyプロジェクト』と名付け、その第一弾サービスとして『TiNK Desk』サービスをスタートします。

● tsumugが取り組む社会課題

2033年には、日本国内の住宅の空室率は30%を超えと言われています。空室が増えることで建物の老朽化は加速し、治安の悪化をも招くなど、物件の所有者だけでなく居住者の生活にも大きな影響を与えます。賃貸住宅向けに製品開発を行い、また『それぞれの心地よい居場所で世界を埋め尽くす』ことを目指すtsumugとして「空室問題」は取り組むべき社会課題であると考えています。

● 福岡市実証実験フルサポート事業

「空室問題」に取り組むため、福岡市の主催する「福岡市実証実験フルサポート事業」に『空室問題解決プロジェクト』として申請を行い、10月28日に採択されました。福岡市での実証実験は、同県内で創業し、オフィス家具のサブスクリプションサービス『WAAK（ワアク）』を運営するワアク株式会社と協業して進めます。利用者目線のサービス検証の他、今後不動産オーナーや物件管理会社が自ら『TiNK Desk』を運営できるサービスにするための検証も合わせて行い、2020年春の正式サービスリリースを目指します。



福岡市実証実験フルサポート事業 採択プロジェクト授賞式の様子

● パートナー企業、および物件管理者・所有者の募集

tsumugと協業いただけるパートナー企業や、空室にサービス展開を希望される物件管理者・所有者の方を募集しています。下記問い合わせフォームよりご連絡ください。

協業に関するお問い合わせフォーム

<https://forms.gle/S6gazMUunnj8LX18E8>

【会社概要】

会社名：株式会社tsumug

代表取締役社長：牧田恵里

本社：福岡市中央区大名2-6-11Fukuoka Growth Next 301

東京Base：東京都渋谷区渋谷2-14-13岡崎ビル708

コーポレートサイト <http://tsumug.com/>

サービスサイト <http://tinklock.com/>

【本件に関するお問い合わせ】

株式会社tsumug 広報担当：古田

E-mail：press@tsumug.com